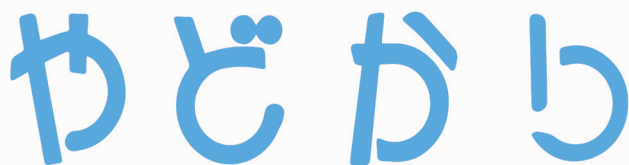


vol.48-12 (通算 549号)

2019年3月号

The logo for 'Yadokari' (やどかり) is written in a large, blue, rounded font. The characters are 'や', 'ど', 'か', 'り'. The 'や' and 'り' have a slight curve, and the 'ど' and 'か' are more blocky.2019年3月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 土橋 敏孝

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarininosato.org/>

定価 50円(含会費)

やどかりの里が大切にすること 目指す方向性は 2018年度やどかりの里総括会議開催

2月16日、やどかり情報館にて2018年度やどかりの里総括会議が開催され、メンバー、家族、職員合わせて44人が参加した。取り巻く環境(社会情勢の動き)とやどかりの里の活動を振り返り、50周年に向けた活動展開を考える時間となった。

情勢報告では「日本国憲法と障害者権利条約を未来につなぐ」をテーマに、政府が掲げる全世代型社会保障に触れ、その背景には、社会保障費の自然増の抑制があることを指摘した。そして、医療・介護サービスでは負担増の仕組みの導入、介護経営の大規模化の検討も行われ、社会福祉の現場にさらなる影響を及ぼすことが予想されると報告された。社会保障削減の動きに対峙するためにも日本国憲法と障害者権利条約の重要性を改めて認識することになった。

次に「中央省庁等での障害者雇用水増し問題と旧優生保護法被害問題」の報告の中では、私たちの「内なる優生思想」と向き合い、自分ごととして考えることの大切さを確認した。社会情勢を知ること、1人1人が問題の本質に「気づく」ことの大切さを共有した。

やどかりの里で大切にしてきたことや今年度の活動のトピックスはイラストで表され、障害福祉サービスの報酬改定への対応、新しいグループホーム建設で目指す多様な住まいのあり方、精神医療の問題が報告された。特に精神医療改革は、やどかりの里の使命と

して「すべての人の健康」を実現していくための重要な取り組みであることが改めて確認できた。

さらに、今年度は8年ぶり第10回目の人づくりセミナーを開催した。「人づくりセミナーで見てきた課題と今後の展開」が報告され、やどかりの里の50周年に向けて検討すべき課題として、① 活動理念の見直し、② 研究テーマを持つこと、③ 多様な学習の場をつくること、④ ネットワークの強化、⑤ 地域所拠点を意識した活動の5つのテーマが提起された。このテーマに沿ってグループで話し合い、その中で、やどかりの里の50周年を意識して検討すべきことが提案された。例えば、それぞれの活動の中で、身近なことから話し合う時間を大切に、やどかりの里の活動やその理念を地域に向けてわかりやすく発信していくこと、また、分け隔てのない社会の実現、地域で住民の顔が見える活動、地域に資する活動を目指すこと、共感できる人たちの輪を広げていくことなどが話し合われた。

2020年には50周年を迎えるやどかりの里が、活動のあり方について話し合う機会でもあった。総括会議で話し合われたことを整理しながら、2019年度の活動方針につなげていくことになる。やどかりの里が目指す方向性を確認しながら、活動を進めていきたい。